

# 学校だより 熱 砂

<発行>  
令和元年 11月 18日  
発行責任者：校長  
和田 政男

## 楽しかった！デイキャンプ(G1～G4), 砂漠キャンプ(G5～G9) 終了！

11月14日(木), G1～G4の児童がスクールバスに分乗し、デイキャンプにでかけました。事前にバーベキューの材料を買い物に行くなど、生活科の学習の一環でもありました。涼しくなってきたなあと思えるドバイの気候ですが、日中の日差しは強く、子どもたちは日焼けした様子もありましたが、「楽しかった！」と元気に帰校しました。

同じく11月13(水)～14(木)は、G5～G9の児童・生徒が砂漠キャンプに一泊二日の日程ででかけました。旅行会社のドライバーが運転する四輪駆動車に分乗し、元気に出かけ、疲れも見せず元気に帰ってきました。いつも児童・生徒の前で話をすると感じるのですが、子どもたちの話を聞く姿勢、眼差しがとても良く、「どこに出しても恥ずかしくない子どもたちだなあ」と思います。きっと旅先でも良い印象を振りまいてくれたのだらうと思います。

引率の先生方を含め、大変お疲れ様でした。



左)デイキャンプ出発式 右)砂漠キャンプ出発式



11月15日(金)

### PTA 秋祭り開催

今年度は日本人会文化部のご協力もいただき、沢山の方々のご来場を得、盛大に開催することができました。関係の皆様、本当にご苦労様でした。

秋祭りの最後は、この日の披露を目指して取り組んだ全校児童・生徒による「直実節・ロック直実」でした。日頃お世話になっている方々に感謝の意を表そうと演目を変えながら毎年実施してまいりました。

私は年度途中からの着任でしたが、練習風景を見ておきますと、授業を削ることは極力避けて、朝の10～15分、昼の10～15分というように、いわば「隙間時間」を活用しての練習でした。

もちろん、時間をかけて練習すれば一糸乱れぬダンスを披

ロック直実の様子→



露できたのかもしれませんが、本校の先生たちが目指したのはそこではなく、「普段の学校生活をしっかりとやった上で出来る最上のもの」ということだったのであらうと思います。

時間になるとサッと集まり、ポイントを押さえた練習をして、サッと次の活動に入ってゆく。子ども達その健気な姿がとても印象的な練習風景でした。

以上、本番のダンスの素敵さと併せて、紹介させていただきました。

ある日の学級だよりから

今回は、G7の学級だより「挑戦」にあった文章を紹介いたします。

教科の学習だけではなく、教師の思いや生き様を生徒に示すことは、今すぐに結果として表れるものではありませんが、少なからず生徒の生き方に影響を与えるものと思います。

#### 青年海外協力隊

先週の参観日の道徳で、青年海外協力隊の話をしました。教員になってから、自分が関わった学校の生徒には必ず話をしているのですが、国際協力やアフリカのこと（特にエチオピア）について知ってもらいたいという思いからです。

もしかしたら国際協力なんて、自分には関係ないと思う人もいるかもしれませんが、でも、こうして海外で暮らしているみんななら、他の国との関係が大切だということも感じているのではないのでしょうか。ボランティアをすることだけが国際協力ではなく、世界中の人がより良く生きられるように、地球全体のことを考えることも国際協力です。そして、国際協力とは決して難しいものではなく、中学生のみんなにも取り組めるものです。

授業の中で話しましたが、協力隊に行く前は、「ボランティアで行くんだぞ」という偉そうな気持ちが少なからずあったと思います。だけど、エチオピアでの2年を振り返ってみると、自分がしてきたことは高校生に化学を教えることだけでした。そして、その活動ができたのは、自分の住んでいた村の人たちが受け入れてくれ、助けてくれたからです。ボランティアは一方通行ではなく、相互通行だと気づいたのが、この協力隊の経験を通じてでした。「ボランティア」と聞くと大げさに感じるかもしれませんが、自分にできることを誰かのためにすることがボランティアになるのだと思います。日常の中でもできることだし、その小さな行為が「優しさ」となり、伝わっていくのだと思います。みんなの少しの優しさが集まることで、笑顔で過ごせる世界を作っていけるのだと思います。

私はエチオピアでの2年間で、たくさんの優しさにふれることができました。そして、言葉や文化や宗教が違って、心を通い合わせることができることも知りました。人は一人で生きていくことはできません。人によって傷つけられることもあります、それを癒してくれるのも人なんだと思います。

50分の授業の中でどれだけ伝えることができたかわかりませんが、何かを感じて、心にとめておいてくれることがあったなら良かったなと思います。

#### <生徒の感想>

○僕は学校に行って勉強することが普通の生活で、エチオピアの子どもは羊をさばいたり、家族のために働くことが普通の生活。エチオピアでは貧しくて死ぬ子どももいることを知った。困っている人を助けるのは当たり前だ。でも先生の話聞いて、その当たり前がどれだけ大変なのかを学んだ。だけど僕はまだ何をしようとも思わないし、何もできない。する勇気もない。危ないし、不衛生だし、ボランティアだし、という気持ちの方が大きい。でも人のために何かをすると自分に返ってくる。先生の動画で見たように自分から人に接していると、自分を信頼してくれるようになる。そうやって友達ができいくし、世界を知ることができる。青年海外協力隊について、興味は少し出た。世界の人と接して、人を助けられるのは素晴らしい。そこに参加する勇気はまだまだないけど。